



# GREEN LETTER

グリーンレター

**Vol. 245**

2017/04/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

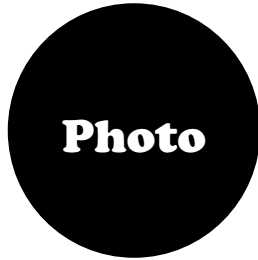
GREEN COLUMN

01. あなたの好きな山菜は？

02. 相生線で Go!



今月の一枚



## 「ユキザサ」

表紙写真・文／城坂結実

雪の名残もすっかり消える、5月下旬の森の中。まるで季節を逆戻りするかのよう、雪の結晶に似た花が森を彩ります。ユキザサです。

地方によってはアズキナとよばれ、山菜としても親しまれています。

# Event. 今月のイベント

企画展「相生線で Go!」 ～7月2日（日）

ロビー展「お宝みせます!!」 4月22日（土）～5月7日（日）

プチ工房「バードコールをつくろう」 4月12日（水）,14日（金）

国際博物館の日 記念行事 4月29日（土）

# Information. 参加者募集

プチ工房 「バードコールをつくろう」

● 4/12（水）, 14（金）10:00 - 12:00, 14:00 - 16:00 自由に入室。作品ができたなら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費（200円） ●町田善康（美幌博物館） ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

国際博物館の日 記念行事

● 4/29（土）9:30-17:00 入館無料

【展示解説】〈午前の部〉10:00 - 12:00, 〈午後の部〉14:00 - 17:00 ●美幌博物館 2F ●美幌博物館 学芸員 ●申込み不要

【体験イベント】 ● 〈午前の部〉10:00 - 12:00, 〈午後の部〉14:00 - 17:00 ※出来上がり次第終了 ●200円 ●城坂結実（美幌博物館） ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。各回先着10名で締切

【コーヒーサービス】〈午前の部〉10:00 - 12:00, 〈午後の部〉14:00 - 17:00 ●美幌博物館 2F ●無料

今月の休館日

3日, 10日  
17日, 24日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

## 01 GREEN COLUMN グリーンコラム

# あなたの好きな 山菜は？

写真・文／城坂結実



ふきのとう、たらんぼ、ギョウジャニンニク、ワラビにウド。春、これらの言葉を聞くと、いてもたってもいられない方は多いのではないのでしょうか。かく言う私もその一人。雪解けがすすみ、ここ美幌町にも山菜シーズン到来です！

本州から北海道に来たときは、山菜の種類之多さと、存在の身近さにとても驚かされました。4月になると、まるで挨拶のように「タラの芽を採ったよ。」「ワラビは出てきた？」など、情報交換をする声が聞こえてきます。

山菜といえば、北海道内でも地方によって好みに違いがあり、それもまた興味深いところです。例えば、ユキザサ。ゆでると小豆を煮たときのような香りがするので、別名アズキナともよばれます（ユキザサとは別の植物を、アズキナとよぶ地方もあります）。苫小牧市の林では、これを目当てにした

方に出会うことが度々ありました。しかし、美幌町でユキザサを採っている人に出会ったことはありません。

一方、どこでも人気が高い山菜もあります。その一つは、ギョウジャニンニク(写真)。あまりの人気ぶりに、せっかく山へ採りにいったものの、他の人に採られた後だった…ということもしばしば。ギョウジャニンニクが生えている場所は、“親しい人同士でも秘密にしている”なんて話も耳にします。

そのギョウジャニンニクは、「北海道、東北地方の集団は、今や壊滅の危機に瀕している。」(植物生活史図鑑Ⅱ 春の植物 No.2)と書かれるほど、近年、個体数が減っているそうです。

末永く楽しめるよう、マナーを守った山菜採りへ、さあ！出かけましょう。

## 02 GREEN COLUMN グリーンコラム

# 相生線で Go!

写真／前田武夫・文／町田善康



**魚** 無川沿いのせせらぎ公園を歩き、遊歩道のどん詰まりをさらに進むと、川沿いに古ぼけたコンクリート製の橋脚がありました。当時、私は、魚類調査に夢中で、この橋脚については、ほとんど気にもとめていませんでした。

しかし、それから数年後、町の歴史について調べ始めた際、これが美幌駅（美幌町）と北見相生駅（津別町）を結んだ相生線の橋脚跡であることを知ったのです。そして、再び、その場所を訪れると、不思議とノスタルジックな気持ちになりました。

乗ったことも、見たこともない相生線ですが、古ぼけた橋脚を前に、「いつか博物館で展示会をしよう」と、その時なぜか決意したのです。

さて、この相生線は、美幌駅から北見相生駅までの 38.6km を結び、人や物資流通、とりわけ木材輸送に貢献し

ました。1924（大正 13）年に美幌～津別間が開通し、その翌年には、北見相生まで開通しました。

開通当初は、その先の釧路まで延伸する計画がありましたが、道路交通網の発達に伴い、利用者や輸送量が減少。1970（昭和 45）年には延伸計画が中止され、1985（昭和 60）年に廃線となりました。

今回の展示会では、町内在住のアマチュア写真家、前田武夫さんが撮影した相生線の写真と共に、相生線が走っていた当時の美幌駅や津別駅の資料を展示します。また、個人の方からもたくさんの資料をお借りし、懐かしい様子を振り返ることができます。特に、美幌駅の資料は初公開となり、信号機の切り替えテコや、転てつ器（線路のポイントを切り替える機械）は、なかなか見ることが出来ない逸品です。この機会に、ぜひご覧ください。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 ( 72 ) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

## 学芸員のつぶやき



相生線で GO ! 軽い気持ちで企画した展示会でしたが、本当に苦労しました。原稿を書いている今まさにこの時、展示会の準備が大詰めを迎えています。このグリーンレターが配布される頃には、無事に開催を迎えられると良いのですが…。眠れぬ日々が続きます。(町田)